

令和 4年 8月 3日

学生の皆さんへ（同報：教職員の皆さんへ）

新型コロナウイルスによる感染症への対応について
～ 夏季休業に入るにあたって ～

学長（危機対策本部長） 仁科弘重

現在、わが国全体でも、また、愛媛県でも、第7波の中にあり、感染者数は連日過去最多を更新しています。しかし、国全体での「経済社会活動を維持する」との方針に従い、愛媛県でも県民への行動制限は求められていませんし、本学でも、サークル活動を除いて、BCPレベルはライトイエローにしています。そのため、ほぼコロナ前と同等の大学活動を展開できていると思います。

さて、「経済社会活動を維持する」ということは、各自の行動をコロナ禍前の状態に戻してよいということではありません。「新型コロナウイルスが私どもの社会の隅々まで入り込んでいる状態にもかかわらず、経済社会活動に制限を掛けない」ということは、むしろ、「各自の行動については、これまで以上に自覚をもって、感染防止対策を徹底する必要がある」ということです。

これまでに、何回も、感染防止対策の徹底をお願いした学長メッセージを發出させていただきました。おそらく、大部分の学生さんは、私のお願いを聞き入れてくれ、感染防止対策を徹底してくれていると考えています。しかし、自覚がないまま、数人で長時間の会食やカラオケを楽しみ、結果として、お互いに感染し合っている事例も、残念ながら、多数見られます。また、体調が良くないと感じながら、または、前日の体調不調が軽減したからといって、授業出席や友人との面談、会食などを行っている人もいます。私も、正直言えば、「学生さんに、いくら注意喚起をしても、気持ちが届かない」と落ち込みます。

現在、愛媛県においても、医療体制は逼迫してきています。事実、医療の現場では発熱患者さんが受診しにくい状況や、入院施設がいっぱいとなり患者さんが入院できない状況も生じており、さらに、医療従事者の陽性者や濃厚接触者の増加によって病院機能も低下しています。これ以上感染者が増えると、医療体制が崩壊します。

大学生という、知識も思考力も持っている立場であれば、「自分がどのような行動を取れば、自分の周りに、さらにその周りに、さらに社会に、どのような影響を与えるか？」を想像

できる必要があります。これができなければ、最高学府である大学に在籍しているとは言えません。

来週から夏季休業に入ります。皆さんに有意義な時間を過ごしてもらうためにも、再度、下記の確認をお願いします。

- (1) 2時間を超える、または、5人以上での会食は、できるだけ行わない。
- (2) 複数人でのカラオケをしない。
- (3) 当日または前日に少しでも体調不調を感じた時の外出（大学への登校も）を行わない。
- (4) 日頃会わない友人との面会は、できるだけしない。

最後に、私はこれまで感染していませんが、私が行っている感染防止対策の例を、下記に示します。参考にしてください。

- (a) 東京に出張に行った時は（コロナ後は、2回のみ）、羽田空港の飛行機の離発着を見られる屋上の展望デッキ（屋外）で、1人でおにぎりを食べる。
- (b) 四国内の出張時（車）でも、サービスエリアでおにぎりを買って、屋外の公園的な場所で、秘書の2人とは5m位離れて、食べる。
- (c) 立场上どうしても出席せざるを得ない会食では、食べ物を口に入れる時以外はマスクをし、料理が出てきたらその皿の物は急いで全部食べる。食べ終わる前に、他の人が、名刺交換などに自分の席に来た場合は、その皿の料理は食べない。できれば、所用があると言って、1時間くらいで退出する。食べ足りなかった場合は、帰宅後、お茶漬けを食べて満足する。
- (d) できる限りの換気をする。窓は、対面する複数の窓を開ける。
- (e) どうしても、換気が十分でない、または、隣の人との距離が広くない室内に居ざるを得ない場合は、不織布マスクを2重にする。